




2025 大阪万博誘致 若者 100 の提言書

Return to HUMAN, Flow into FUTURE.



夢よもう一度、ではない。私たちは、 万博でこれからの生き方を問いたい。

なぜ、万博を誘致したいのか。私たちの答えは、「問いたい」からである。
数年後の未来さえ予想することが難しくなってしまった現代。高度経済成長時代の思想の延長線上に、これからの幸せは見つかりそうにない。

府が提案する万博のテーマは「人類の健康・長寿への挑戦」。「健康」「長寿」と聞くと、医療業界のための万博、お年寄りのための万博といったイメージが先行する。しかし、健康は病気を治すだけでは達成されないし、万人に共通するテーマであるはずだ。

人類の健康を考えるには、まず人類の理解が根底にくるであろう。そして、生物としてのヒトから、社会的な人へと理解を進め、真の豊かさ、多様性について再考する必要がある。最後に、健康を実現するための未来を協創していくことが求められる。

万博を、ただの技術展示会にしてはいけない。安易な答えが通用する時代ではない。人々の価値基準を揺さぶるような強烈で根源的な「問い」が必要だ。そして、子供たちがワクワクし、若者が熱狂できる万博をつくるための、具体的な「アイデア」に落とし込めるか。

私たちは、議論を重ね、5つの「問い」を決めました。そして、そのテーマを問うための「アイデア」を計100個発案し、提言書にまとめました。コンパクトにまとめながらも、抽象的な理念だけでなく、できるだけ具体的な内容まで書くように努めました。

「2025 大阪万博誘致 若者100の提言書」が、万博誘致に向けての検討会にて使用され、若者の意見が、誘致案に積極的に取り入れられることを願います。

2025 大阪万博誘致 若者100の提言書 編集委員長 寺本 将行



目次

P3 …… 私たちの向き合う「これから」

P4 …… 提言5つのテーマ

P5-9 …… テーマ①「人類とは何かを問う万博」

P10-14 …… テーマ②「生とは何かを問う万博」

P15-19 …… テーマ③「真の豊かさを問う万博」

P20-24 …… テーマ④「多様性に感動する万博」

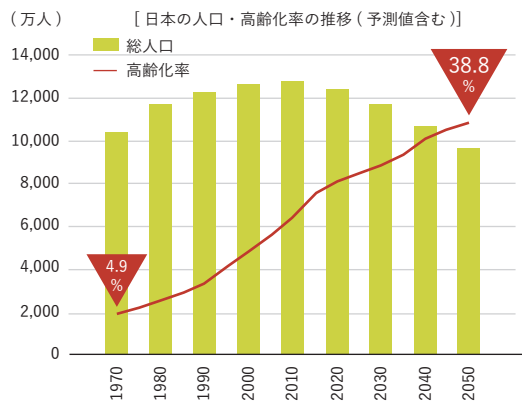
P25-29 …… テーマ⑤「世代を超えて共創する万博」

P30 …… 編集後記

[府が掲げるテーマ]

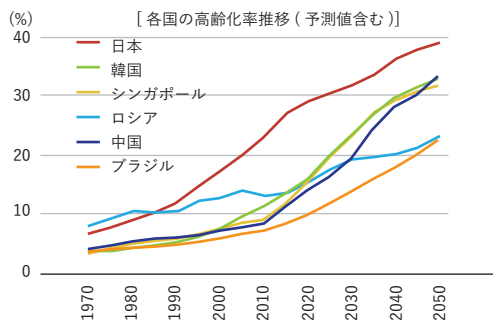
人類の健康・長寿への挑戦

▶ 超高齢社会、日本



日本は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。推計によると日本の人口は2020年には1億2,410万人となり、2050年には1億人、2060年には9,000万人を割ることが予想されている。その一方、高齢化率は年々上昇。2025年には30%、2060年には40%を超えると見込まれている。さらに、万博開催の2025年までには、団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）に達するため、介護・医療等社会保障費の急増が予想されており「2025年問題」として警鐘が鳴らされている。

▶ 世界でも進む高齢化



高齢化は日本だけの問題ではない。これは世界規模で起こっており、世界の高齢化率は2010年の7.6%から、2060年には18.3%になると予想されている。中でも、アジア諸国、特に中国や韓国は日本を上回るほどの著しい早さで高齢化が進むと見られており、高齢化の中でいかに健康長寿を達成するか、という問いは世界規模で見つめるべき課題なのである。

その点において、日本はいわば“高齢化先進国”。一足先にその課題を前にした私たちだからこそできる万博があるはずだ。

* 出典： 超高齢社会の現状 総務省「平成25年版 情報白書」

▶ 若者が考える必要性

去る12月16日に開かれた第1回2025年国際博覧会検討会において委員から「若者や新興国の人々に、ワクワクする感じを持ってもらえるテーマにしてほしい」という意見があがるなど、中高年向けというイメージが喚起されるテーマ「健康・長寿」に対して、未来へのワクワク感不足が指摘されている。中高年だけではなく、皆に意義ある万博とするためには、私たち若者が参加したい、創り上げたい、と思える万博を自分自身でデザインしていくことが不可欠である。超高齢社会、それを支えるべき私たち若者。それをテーマにした万博案に、今、声を上げずになんかいられない。世界の未来を描く万博。2025年、私たちの描きたい未来を、世界に問かけよう。

マナーの5つの提言者若

山で蓄えられた水は、

川となり、ときに蛇行し、

ときに分かれ、

海と交わり、広がってゆく。

万博会場として

挙げられている「夢洲」は、

琵琶湖から流れる唯一の河川、

淀川の河口部に位置する。

そこで開かれる万博は、

どうあるべきだろうか。

ヒトの水源を知り、

流れ行く生命の営みを見つめ、

そこで生み出す豊かさを感じ、

分かれ結合する水脈の

多様な姿に感動し、

世界と繋がる河口部の洲で、

世代を超えて共に未来を創る。

そんな万博を、掲げたい。

人類とは何かを問う万博

P5-9

生とは何かを問う万博

P10-14

真の豊かさを問う万博

P15-19

多様性に感動する万博

P20-24

世代を超えて共創する万博

P25-29



1

人類とは何かを問う万博

進化というものは、壮大な詩であり、劇である。
- 今西錦司 -

人類の水源を知る。

人類をデータ化し、人類とは何かを深く探求する。人類の健康を達成するには、人類への理解を深めていくことが必須であり、古来より様々な研究活動が行われてきた。IoT、ビッグデータといった最新のテクノロジーは、この研究活動を更に進め、私たちは一体何者かという根源的な問いへの答えを与え、個別化されたヘルスケアを実現する可能性を秘めている。

▶ EXPO HEALTHCARE BANK ①

データベース

バイオインフォマティクス

IoT



万博内では日本屈指の最先端テクノロジーが搭載されたIoTデバイス、フットウェア、ウェアブルなどが来場者に手渡される。身に付けるすべてのデバイスに来場者 3000 万人から時々刻々と得られるバイタルデータを“EXPO HUMAN HEALTH BANK”に蓄積。希望者からは併せてゲノムデータ、疾病情報、行動データも集積し、バイタルデータと紐づける。将来的に各国の研究機関、企業が“EXPO HUMAN HEALTH BANK”にアクセスすることで、史上最大規模の新時代ヘルスケア研究、事業を創出する。

② Uterus - pia ◀

大阪湾

胎内回帰

リラクゼーション

チベット仏教・キリスト教では、人類の原初的な衝動の一つとして胎内回帰が挙げられ、住居・建築に幅広く取り入れられている。大阪湾の海水を原料とした羊水が、子宮を模したカプセル型入浴装置“Uterus-pia”に満たされる。カプセル内の明るさ、大きさ、浮遊感は胎児に対する子宮を再現。体験者は、陸上で必要であった一切の衣服から解放され、人類共通の安らぎを得るだろう。

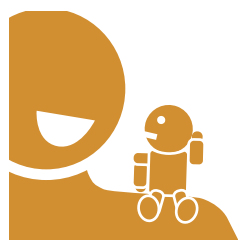


▶ EXPO コンシェルジュ ③

ロボット

コミュニケーション

おもてなし AI



パビリオンを紹介する人工知能搭載ロボット“EXPO コンシェルジュ”が来場者 1 人 1 人にお供する。「ヒト型」「アニマル型」「音声型」の三種類から自由に選べ、それぞれ特徴的な性向で来場者を案内。人工知能には人間とのやり取りが蓄積されガイドは高度に洗練されてゆく。快適に万博を楽しんでいただけるだけでなく、人類は自身の高度発展に不可欠な「コミュニケーション」を、ロボットという写し鏡によって理解してゆく。

④ 献セル (献 Cell) ◀

再生医療

iPS 細胞

セルプロセッシング

「献血」ならぬ「献セル(Cell)」。万博内では来場者から細胞が「献セル」(=細胞の任意提供)され、万能な初期状態に戻す iPS 技術を用いて HLA 型によって分類し、iPS 細胞をストックする。創薬、再生医療の発展、難病の治療など様々なポテンシャルを持つ日本発の技術 iPS 細胞を、日本の医療インフラに。世界中の創薬、再生医療が 2025 大阪万博から変わってゆく。



▶ The Original Landscape 5

抛水林 / 人類の進化 / フィールドアスレチック

本パビリオン“The Original Landscape”では、巨大ドームにて地球最古の人類“Sahelanthropus tchadensis”が目のお当たりにしたであろう700万年前の抛水林が完全再現されている。原初人類になりきった来場者は樹上アスレチックを駆け巡ることができる。桁違いのスケールで再現された抛水林に圧倒され、人々は老若男女問わず、人類の原風景の壮大さを目の当たりにするだろう。

▶ The Metabolic Structure 6

オルガネラ / メタボリズム / 都市設計

細胞。それは生物に共通する最小にして共通の基本構造。そこでは日々破壊と創造が繰り返され、いのちの鼓動を繰り返す。万博会場全体が細胞のデザインを模して建造されており、各オルガネラの名前がついた施設が立ち並ぶ。生物史上最も美しく最も自律的な生命体を機能的に模した会場は、3000万の人々とパビリオンを有機的に結合し、代謝し、新たな生命の歴史を刻み始める。

▶ 人・体・験 7

人体 / 解剖学 / VR

AD150年頃、ギリシア医学者“Claudius Galenus”は人類最古といわれる解剖学書「人体の諸部分の有用性」を記した。生命の進化の結晶としての人体・自然の神秘の宝庫である人体を知ることが人類にとって必然的欲求である。体験型アトラクション「人・体・験」ではVR技術を用いて人体の隅々にまで入り込み、「ミクロの決死隊」さながらの臨場感で、人体の秘密に迫る。

▶ アゲプレ 8

文明 / 感染症 / ゲーム

「感染症との闘い」—人類は幾度となく危急存亡をかけて、この課題に立ち向かってきた。バイオパンデミックシミュレーションゲーム“Against Plagues”（通称アゲプレ）では、パビリオン内に設置されたゲームブースに入り、パンデミックによる人類滅亡を狙う“Plagues”と、それを阻止し、人類を救う“Defenders”に分かれ、対戦を行う。地球上を舞台に種の保存をかけて人類と病原性微生物が鎬を削る。細菌研究者たちの協力を得ながら、人類は生き残ることができるのであろうか。

▶ The AI Museum 9

人工知能 / アート / 人間らしさ

パビリオン“The AI Museum”では、様々な人々の芸術的営為を読み込ませた人工知能 The AI Artist “Pierre” がたった「一人」で個展を開催。

巨匠の不朽の名作からストリートアートまで、あらゆる作品を取り込んだ Pierre は何を描くのか。

『アナタタチニトッテノ「本物の人間らしさ」トハナンデスカ。』人工知能からの挑戦状が静かにたたきつけられる。

▶ 人工知能は人間を超えるのか 10

シンギュラリティ / 脳型コンピュータ / 認知機能

2018年には人工知能が人類を超える。しかし認知機能だけは人類を超えられないのではないのか。メモリー情報をコア同士の電気シグナルのやり取りで処理することで、ニューロンネットワークが発達した人間の脳を再現する。

その脳型コンピュータに来場者が語りかけ会話をすることで、コンピュータは人間の常識を身につけ、

人の気持ちを理解するようになる。人工知能は本当に人類を超えるのか、万博で実験する。

人類とは何かを問う万博

▶ 最 - SAI - 11

パワードスーツ / 身体能力の拡張 / スポーツ

「人間の限界とはいかなるものであろうか」――。BC776年、記録史上最古の古代オリンピックが開催されて以来、人類はこの問いに己の肉体をもって答え続けてきた。本パビリオン「最 - SAI -」では、オリンピック選手の運動能力をパワードスーツによって完全再現。人類最速の100m走が、人類最強のウエイトリフティングが、人類最高難度の体操競技が、パワードスーツを着ることですべて体感できる。人類の“最”、とくと体感せよ。

▶ The Oldest Tastes 12

食文化 / 穀物 / 復元

農耕の開始は人類にとって非常に大きな転換点だった。人類は農耕を通して、芳醇な食文化を形成していくのである。古代エジプト文明では農耕で得られた穀物を原料とするパンとビールが食べ物の象徴的存在であった。今なお世界の食文化の中心に位置するパンとビールをはじめ、穀物食が最古の姿で復元され、万博内で振舞われる。幾千年と積み重ねてきた「食べる」という営為の歴史の深みを味わおう。

▶ 一音 BAR 「ば」 13

言語 / 非言語コミュニケーション / BAR

「ば！」「ばば！」「ばーばば、ばば？」「ばばばっ！？」「、、、ばばばばばば。」

一音 BAR 「ば」での日常会話である。人類の原初的な言語の発生を探るべく、「ば」一音でのみ、会話が許される BAR。人類がまだ高度な言語を獲得していなかった時代、私たちの祖先はどのようにコミュニケーションをとっていたのだろうか。人類はこのカオスの中からいかに言語的秩序を生んできたのだろうか。そんなことに想いを馳せながら、また一杯お酒がすすむ。

▶ “神” 芝居 14

神話 / 文化人類学 / 紙芝居

人類は森羅万象に様々な認識と解釈を加え、神話を語り継いできた。神話は各国独自の世界観と宗教観を反映し、それぞれの文化圏で根強く伝承されている。「“神” 芝居」では、万博に訪れた子供たちに、世界の神話を、日本独自で発展させてきた紙芝居形式で伝える。子供たちに、人類がこれまで語り継いできた、形而上学的深淵を体感してもらう。

▶ La résurrection 15

ファッション / 復元 / ハンドメイド

“Clothes makes the man.” -Mark Twain- 初めて衣服を作ったであろう人類は、手近なものを組み合わせ意匠を凝らし衣服文化を編み上げていった。本パビリオン“La résurrection”では現存する最古の人類のオートクチュール「タルカン・ドレス」をはじめ、世界中で発見される様々な古代衣装を現代に蘇らせる。パビリオンでは展示のほかに衣服の製作体験をすることができ、衣服を創り始めた人類に自らを重ね合わせる。

▶ EXPO 未来 Lab 16

近代科学 / 研究所 / 実験体験

「それでも地球は回っている」。1633年“Galileo Galilei”はこうつぶやいた。自然界に理性を掛け合わせ、説明を試みる近代科学は人類を今日まで発展させてきた。“EXPO 未来 Lab”では、市民による実験体験と専門職による研究が同時に行われることで、ブラックボックス化されがちな科学技術の可視化と近代科学の価値の再考がなされる。また、世界有数の関西主要研究機関との連携を強固にし、関西が世界の科学拠点地区としてのポテンシャルを持つことを世界にアピールする。

▶ Virtual Imaging Mirrors 17

鏡 / アイデンティティ / ユビキタス社会

インターネットの発明は、ネット上にもう一人の「自分」を生み出した。人工知能の発達で、自分が選択する前に先回りするバーチャルな「自分」と人類はこれから対峙していかなくてはならない。“Virtual Imaging Mirrors”は、自己とは何かを問う鏡である。ただ光を反射するだけではない。音声入力と、鏡上部のカメラでもう一人の「あなた」を鏡の中に複製する。大きな姿見に映し出された等身大のあなたは、問う。「やあ、『鏡の外の』僕。元気かい？」

▶ はじまりの木 18

系統樹 / 博物学 / 木材液化技術

人類はどこから来て、どこへ向かうのか。この謎を解き明かすため、博物学や分類学といった学問が誕生した。こうした学問が発展し、進化の過程は一つの概念的な樹—系統樹—として表現されるようになる。人類が始まるまでの系統樹を、高さ 25m のサイズで完全再現した「はじまりの木」は、役目を終えた廃木材を木材液化技術によって樹脂として再生利用し、その樹脂をもって創られる。「はじまりの木」は、すべての生物のメモリアルとして天高くそびえ立つ。

▶ あなたのこたえ、みんなのこたえ 19

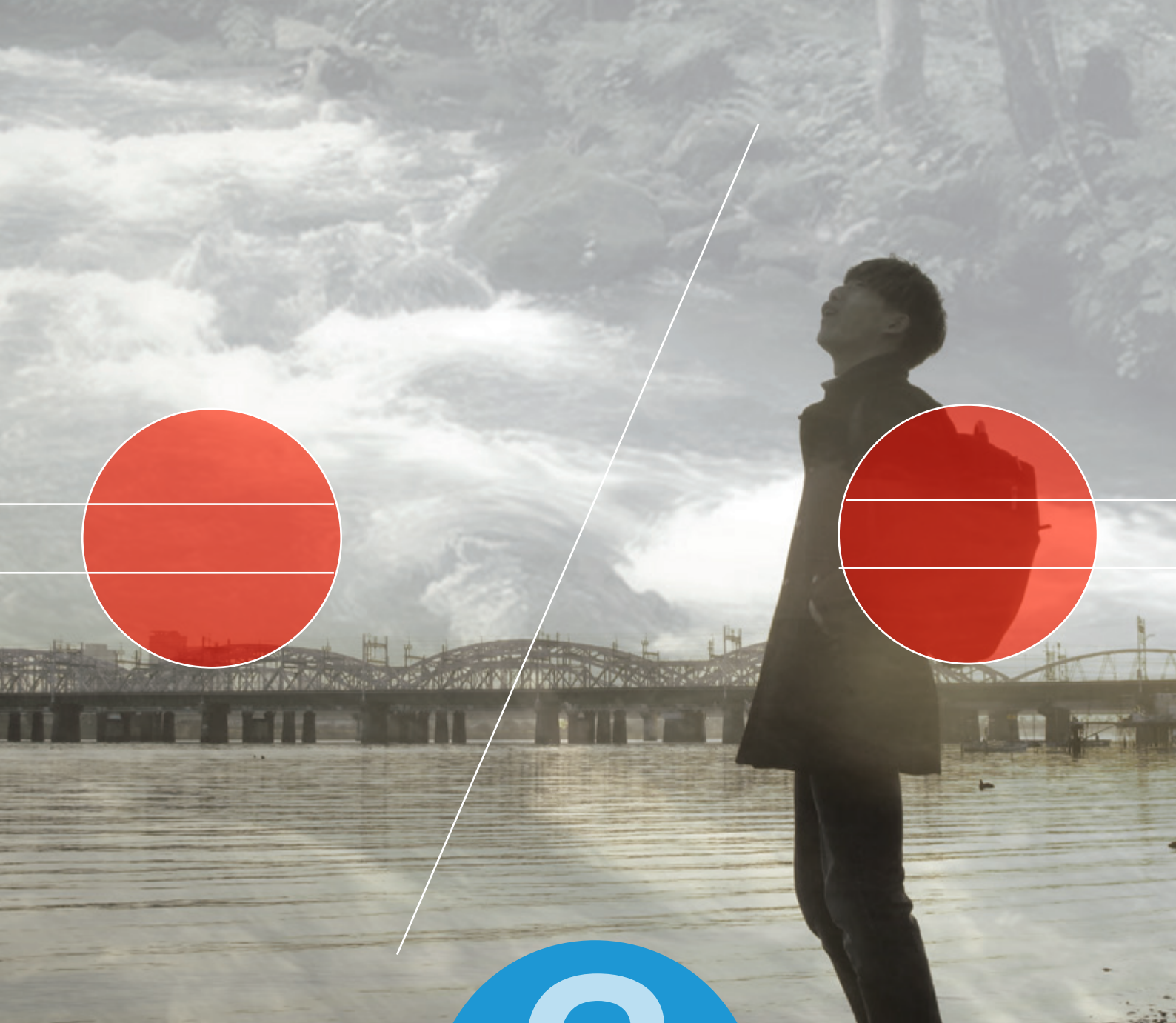
倫理 / データヴィジュアライゼーション / 臨床哲学

「あなたは電車の運転手です。5人を救うために、ハンドルをきって、1人をひき殺せますか？」—「トロッコのジレンマ」をはじめ、これまで哲学者が行ってきた思考実験を、来場者一人一人に行う。来場者は ICT デバイスにて匿名投票することができる。複雑性が増す世界において再度注目されるべき倫理観。答えのない「問い」への現代人のありのままの答えを浮き彫りにする。

▶ 祈りの鐘～Pray for the others～ 20

黙祷 / 共通体験 / 共感力

同じ時に、同じ場所で、同じことを。人類の共感能力は、集団の協力を高め、共同体を一つの行動へと促してきた。しかし、現代では生き方が多様化し、皆が違うが故に他者を想像し、互いに共感することが容易ではない。共感をもとに繋がりあってきた古の記憶を呼び起こすべく、夕暮れの 60 秒前から静謐に鐘だけが鳴り響く。来場者は歩みを止め、顔を閉じ、静かに「誰か」のことに思いを馳せる。共感を、ここから。



2

生とは何かを問う万博

行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず。
よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとゞまることなし。

- 方丈記 鴨長明 -

生から死へと流れゆく生命の営みを、見つめる。

根源的な人類のカタチを問うた上で、次に考えるべきは、自らの生命ではないだろうか。

普段自覚することのない生命。生とは何か、死とは何か、という問いを投げかけることで、その大切さや意味を、私たちは知ることになるのだろう。超高齢化を目の前に、死と生のあり方を浮き彫りにする万博を。

▶ 愛情アーカイブス 21

家庭内ロボット

アーカイブ化

愛情の記録



ふと、無性に、亡くなった人に会いたくなる時がある。2025年、家庭用AI搭載ロボットが万博にて展示される。生きた証を動画や画像など「情報」として残せる現代。「情報」の次に、残したいものは何か、それは「愛」ではないだろうか。ロボットが家庭の日常を記録。家族の誰かが亡くなった後、あの人と会いたいと思った時にホログラムで故人が現れ、日常の風景と共にあなたに語り掛ける。「会いに来てくれたんだ。」ああ、これが愛なんだ。「愛」を残せる。生きる意味が一つ増えた。

22 HELLive ◀

ライブ

エンターテイメント

死後の世界

死後の世界に対する思いは文化を超えて共通している部分がある。生への執着や罪悪はドロドロとした「地獄」観を人々の心の中に渦巻かせてきた。音楽フェス“HELLLive”では、センセーショナルな外観と複雑な内的世界観で人々の心を離さない「地獄」と、時に理性を超えて脳髄に届く「音楽」とを掛け合わせ、死と生から遠ざかった現代人の心に轟音をぶつける。さあ、地獄を謳歌する準備はできたか。

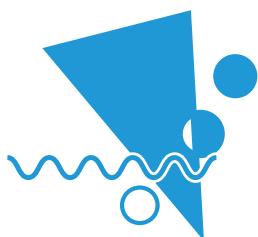


▶ Questions = 100 × (Life + Death) × Art ~ 生死 100 問答 ~ 23

アート

若手アーティスト

問いの展覧会



「どうして人を殺してはいけないのですか」「人間は何のために生きているのですか」「死んだらどこに行くのですか」—「生と死」は人間に問いを与え続けてきた。ここでは「尖った」若手アーティスト精鋭 100 名による「生と死」にまつわる 100 のエキシビジョンが行われる。与えられたものは自分と「アート」のみ。物言わぬ生は、死は。一体どこから来てどこに向かって行くのだろうか。

24 辞世の書 ◀

遺書

エンディングノート

クラウド保存

「明日、自分が死ぬとしたら何を残しますか？」来場者は自身の半生を振り返り、電子ペーパー上に「辞世の書」を認める（したためる）ことができる。「辞世の書」のデータは電子データとしてクラウド上に保存され、必要な時にアクセスすることができる。問いを通して、人は有限の「生」に自ら気づいていく。



▶ In the Coffin Black 25

入棺体験 / 死生学 / 埋葬

死生学の開拓者“Philippe Ariès”によれば、「人間は死者を埋葬する唯一の動物」である。人類は死者を畏敬の念をもって棺に納める。体験型パビリオン“*In the Coffin Black*”では、来場者自ら棺の暗黒へと一人入り込むことで、身を以て「死」を体感する。「死」の象徴としての棺から外に出た時、来場者は今まで感じる事のなかった「生」が世界に溢れていることに気づくであろう。

▶ 執行の日 26

死刑制度 / 公権力 / 人権

5人ずつ通された部屋のモニターには静かに動画が再生される。重大な罪を犯した死刑囚の半生がそこでは描かれる。動画が終わった後、通された五人は、各々で一つずつ設置されたボタンのそばにたつ。合図とともにボタンを押すと「ガコン」と音がなり事は終わる。死刑制度によって私たちは公的に死を与えることができる。しかし、私たちはその事実に対しあまりに無頓着だ。「執行の日」では万博史上最も重く、そして最もセンセーショナルに「死刑」が問われる。

▶ 覚悟の手紙 27

特攻隊 / 戦争 / 手記

「父ハスガタコソミエザルモイツデモオマエタチヲ見テイル」これは神風特攻隊で無くなった中尉が幼い子供へ送った手紙である。第二次世界大戦時、日本にはまさに“決死”の覚悟で亡くなっていく人たちがいた。彼らは戦争の最中、避けられない死を前に、誰に何を伝えたのか。彼らが残した最後の手記、家族への手紙を展示する。

▶ 生まれ！万博 Babies！ 28

子育て支援 / 電動ベビーカー / 医療的ケア児

赤ちゃん、それは「生」の象徴である。「生」であふれる万博に。乳幼児来場者数が来場者全体の5%を超えることを目標に、乳児を預かれる来場者専用の託児所、授乳スペースを完備。また、赤ちゃんを連れた家族には親の傍を自動で並走する電動ベビーカーを貸し出す。更には、万博開催に合わせ、大阪府内に「万博保育園」を設置し、万博の収益の一部を、保育園に寄付できる仕組みをつくる。医療的ケア児の受け入れ体制の充実など、すべての赤ちゃんに優しい大阪を目指す。

▶ “Memento Mori”～死を記憶せよ～ 29

バンジージャンプ / エンターテイメント / Memento Mori

自分がいつか必ず死ぬことを忘れてはいないか。皮肉にも人間が「生」を感じるのは、「死」を身近に感じる瞬間であることが多い。自らの「死」が迫るその瞬間、「生きねば」という生存本能が掻き立てられる。“Memento Mori”は万博内に建てられた「天国の塔」からバンジージャンプすることで、人間が潜在的に有する「死」へのアラートを呼び起こし、「生」への強い志向性を惹起するというエンターテイメント型パビリオンである。

▶ 私だけがいない世界 30

フリーフォール / 天国 / 死後の世界

「もし、自分が死んだ後の世界を覗いたら？」—ごく普通の生活を送る主人公の「私」は、スクリーン上で突如、死んでしまう。「私」は死の直後からゆっくりと「天国の塔」を昇天してゆく。そこで見た「私だけがいない世界」は、「私」がいなくなった後も変わらず回り続けており、「私」はただただ呆然とそれを見つめることしかできないのであった。と、その瞬間視界が暗転し、高さ100mからフリーフォール。現世に戻ってきたとき「私」は再び日常を歩み出す。生を実感しながら。

▶ Chasm 31

臨死体験 / 仮死 / VR

瞳孔散大、呼吸停止、心停止、これを死の三兆候とよぶ。我々はこれを以て「死」とみなすが、生死の狭間には何がおこるのであろうか。死の近傍の感覚。臨死体験には共通している体験がある。暗闇のトンネルに落ちていく、光の玉を見る、走馬灯と言われる一生の出来事を思い出す、などである。最新のVR技術を用いて、この仮死状態を再現し、生と死の隙間を体験することで、「死」はまったく別の様相を呈する。

▶ 夢洲牧場 32

屠殺体験 / 牧場 / 農業

死は隠されている。少し前の日本の様に庭先でニワトリを飼い、締め殺して食べることもない。核家族化、長寿の時代で若者は身近な家族の死さえも体験することが少なくなっている。生活の裏で死が行われ、目に触れることがない。万博会場である夢洲に作られた夢洲牧場ではニワトリ、牛、豚などを飼育し、学生を中心とする青年が屠殺を体験し、生物を殺すことで生、死を実感できる。屠殺された動物は万博食堂で振舞われる。

▶ 節なき不死 33

不死 / 寿命 / 分化転換

秦国の始皇帝は不老不死を求めたが、それを「辰砂」（水銀）に求め死亡したと言われている。竹取物語で將軍はかくや姫がいない人生に意味はないと不死の薬を焼き払った。不死への思いは遥昔から存在するようである。刺胞動物であるベニクラゲは生活環を逆回転させることにより不死を実現している。「大阪海底水族館」にてベニクラゲの展示行い、際限ない寿命、不死に対して思いを馳せる5分間を演出する。

▶ 黄泉列車「たそがれ」 34

黄泉の世界 / 鉄道 / AR

夢洲に向けて、大阪市内から万博直通の鉄道が敷設されている。ここを通る黄泉列車「たそがれ」には、座席一つ一つにARゴーグルが設置されている。これを装着し、車窓から外の世界を眺めると、そこにはなんと、「黄泉の世界」が広がっているのがあった。各国の神話や様々な宗教を通して人間がこれまで想像の世界で描いてきた「死後の世界」が、AR技術によって万博到着までの現実風景に重ね合わせられ、人の生を問う万博の幕が開かれる。

▶ 赤ちゃんエキスポスト 35

赤ちゃんポスト / 特別養子縁組 / 乳児院

100年前は子供は「授かる」ものであった。家族計画により子供を「作る」時代になり、近年、自身の自由が尊重される時代になって、子供は「できちゃった」ものであるとすら言われることもある。生まれてきたかけがえない命を守るため、全国から育てられない子供を一挙に引き取る「赤ちゃんエキスポスト」を設立。子供を育ててくれる関西の里親を募集。特別養子縁組制度を関西で促進させると同時に、「望まれない命」が無くなる未来を実現する。

▶ BAR “Silver Ages” 36

人生相談 / シルバー人材 / 老い

パピリオンの一角にあるBAR “Silver Ages”。このBARの従業員には採用条件が二つある。65歳以上であること、お客様に大人の余裕を演出できること。思春期の悩みを抱えた青年、子育てにつかれた母親、ただ死を待つだけだというおばあちゃん。生きるも苦し、死ぬも苦しと悩みを持つ人々はその胸の内を赤裸々に語る。果たして「老いる」とは引き算なのか、それとも足し算なのか。老バーテンはいつもこちらに微笑みを返すのである。

▶ EXPO mother and babies hospitel 37

産後ケア / ホスピタル / 子育て支援

安全な出産のためのケアは整っているのに対し、産後の子育ての苦勞を支えるケアはまだ十分とは言い難い。万博会場内に産後ケア施設“EXPO mother and babies hospitel”を作り、生まれたばかりの子供を預け、産後子育てをしている母親が、子育てから離れ、家族と食事を楽しんだり、自分自身の時間を過ごせるようにする。愛してやまない我が子でも、時には少しはなれて息をつきたい時がある。負担のない、幸せな子育てを支援する。

▶ 死生観会議 On Air 38

死生観 / 公開会議 / ネットライブ

この世には生と死に精通している様々な職業が存在している。医師・看護師・助産師をはじめとした生に携わる人々と、僧侶・葬儀者のような死に携わる人々が集い、「人はなぜ生きるのか」をテーマに大討論会「死生観会議 On Air」を行う。その様子は、オンラインで世界中に配信され、世界中からコメントが寄せられる。生と死の専門家が、21世紀の「真に生きる意味」を語り尽くす。

▶ 後悔先にたつ 39

終末期患者 / 後悔 / 映画製作

人は死を目前にした時、どんな後悔を口にするのだろうか。終末期患者への事前調査にて人生への後悔をまとめ、成し遂げなかった思いを、ドキュメンタリー映画として撮影する。パビリオン、万博内のホテルで放映された映画は、悔い無き人生へと人々を駆り立てる原動力となる。「誰もが持ちうるが、誰もかなえることができない」最期の後悔を、今、見つめ直す。

▶ 生誕の小径 40

産道体験 / 出生 / 生きる意味

胎内で育った生は須らく一つの体験を行う。母親の子宮という絶対的庇護を抜け、下界に投げ出される「産道通過」である。胎児は一切の光を許さない暗闇を理由もわからず進まされ、自分の意志とは無関係に命をもって産み落とされるのだ。「生誕の小径」は直径わずか80cm、長さ20mの無明の産道を模した滑り台型バルーントンネルである。来場者はトンネル内腔を滑り進むことで、理由なき自分の出生に気が付くのである。



3

真の豊かさを問う万博

人間は、自然によって生かされてきた。古代でも中世でも自然こそ神々であるとした。
このことは、少しも誤っていないのである。

- 司馬遼太郎 -

雄大な流れの中で、豊かさを再定義する。

資本主義の歪みが表出している昨今、格差や失業率の問題は世界的に注目され、健康の社会的決定要因として捉えられ始めている。

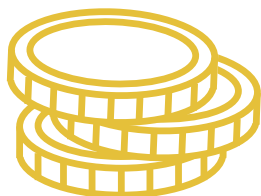
今こそ、資本主義的富の追及ではなく、真の豊かさの追求へと価値転換が必要である。最低限の生活の保障、つながりの担保、健康的な食…さて、「豊かさ」ってなんだっけ。

▶ eBI -expo Basic Income- 41

万博内通貨

ベーシックインカム

フィンテック



「衣食住に苦勞しない世界」。文化的に成熟した国々では幾度となく提案され、そして未だそれに大々的に成功している国は少ない。

ベーシックインカム制度“eBI-expo Basic Income-”が敷かれた万博会場では、来場者3000万人は入場料・滞在費を各国の通貨で払うかわりに大阪万博内通貨「expo」で毎日ベーシックインカムを得る。各々が「真の豊かさ」を追求する万博がここに実現される。

42 ぬくもりホットライン ◀

ホログラム

五感伝達

経験共有

家族を養うため、夢を追いかけるため……。私たちは様々な理由で家族や恋人、友人たちと離れて暮らすことが多くなった。「ぬくもりホットライン」は万博内に離れて2つ存在し、それぞれに来場した者同士が繋がることできる。ホログラムなど最新技術を使い、互いに相手の姿、声、匂い、温もりまで伝わり、あたかもそこにいるかのように感じられる。離れていても大切な人とのつながりを感じられるようになるのだ。



▶ Osaka EXPO Kitchen 43

地産地消

アーカイブ化

愛の可視化



「天下の台所」。江戸時代より商業、物流、人材において日本の中核を担ってきた大坂の愛称である。“Osaka EXPO Kitchen”は万博内の飲食店ルールを指し、「飲食店で提供するメニューは地元大阪で取れたものを必ず使用する」「健康食指標に応じて価格が割引される」など地産地消を目標に、人々に健康的で美味しい食の幸せを共有してゆく。

44 EXPO Companies Unions ◀

次世代開発

合同運営

企業間協力

呉越同舟。春秋時代、敵同士であった呉と越の国がたまたま同じ舟に乗り合わせたときに、暴風に襲われて舟が転覆しそうになったときには互いに助け合ったという故事が由来の言葉である。万博に出展する同分野企業は企業間同盟“EXPO Companies Unions”を組み、技術共有、パビリオン間では自由な人員の割り振り、共同運営が行われる。真の豊かさが求められる今だからこそ、企業の固い協力が求められるのだ。



真の豊かさを問う万博

▶ 空 ~KU~ 45

直感型デバイス / 実世界指向インターフェース / Sixth Sense Tech

ペンと紙。モニターとキーボード。スタイラスとタブレット。思考を留める道具を發明してきた人間は、さらなる豊かさと快適さを求め、道具を「無くす」技術を發明する。直感型デバイス「空 ~KU~」は、従来型の道具と一線を画す直感型 UI で本体を非顕在化し、より快適にデジタル世界にアクセスできる。画面やボタンに制限されたコミュニケーションから解放され、物理的制約を超越することで人間の豊かさはさらなる進展を遂げる。

▶ 万国”教室” 46

教育 / インターナショナル / 機会均等

万博内に一つの学校を作る。その中に世界各国の教室が再現され、その国のユニークな授業を受けることができる。例えば、スウェーデンの教室では、寝転がりながら各々が本を読む。シンガポールの教室ではノーベル賞受賞者が授業をし、フランスの教室にはシェフが現れて食教育をする。世界中の教育のいいところを取り上げ融合する。豊かな教育によって、豊かな人を育てていく。

▶ 浪速の方舟 47

防災 / 建築 / ノアの方舟

大阪湾に浮かぶ夢洲で行う大阪万博では、地震津波対策も万全になされている。各パビリオンは地震が起こった際に水陸両用型シェルターとしても機能し、人々の安全を保障する。その姿は、旧約聖書の『創世記』(6章-9章)に登場する、ノアの方舟物語を彷彿とさせる。パビリオンに施されたシェルターデザインは防災大国日本の未来建築のマイルストーンとなってゆくであろう。

▶ Never-Flying Toilets 48

公衆衛生 / トイレ / 開発途上国

“Flying Toilets”とは、スラム地域などで、路上に放り投げ放置される排便を指し、途上国では衛生状態の悪化、悪臭等の問題を引き起こす。下水処理機能のないスラムでは電力、水資源を使わず、病原菌を殺菌できる持続可能な汚物処理が必要となる。万博に向けて、持続可能なエコトイレの開発をおこない、万博内のトイレとして導入する。日本の技術は、世界の衛生状態の改善にきっと貢献できるはずだ。

▶ 水上帝『ワタツミ』 49

水上都市 / 水質改善 / 持続可能性

生態系に甚大な被害をもたらし、海の豊かさを侵害する海洋汚染。日本古来の海神にちなみ、アクア都市「水上帝『ワタツミ』」がその救世主として人と海の共生・海洋環境の矯正を目指す。ワタツミは海底に溜まるゴミを「捕食」し、「体内」で養殖魚の栄養剤、リサイクル燃料として「消化」。生態系の豊かさを願う海神が大阪湾に降臨する。

▶ Steps For Energy 50

歩行発電 / 再生可能エネルギー / ウォーキング

3,000億歩。3000万人の来場者が1万歩歩いた時の合計歩数である。2016年現在ラスベガスで導入計画がなされている足踏みのエネルギーを電気に変換する「歩行発電」技術によれば、一歩につき4~8Wを生産できる。理論上1兆2000億~2兆4000億Wの発電可能になった万博の床から、万博内のLED街灯に電力供給される。大地を踏みしめる一人一人の力が、万博を照らす光となって降り注ぐ。

真の豊かさを問う万博

▶ 鳴門海底発電所 51

潮流発電 / 鳴門海峡 / 再生可能エネルギー

私たちが生んだ母なる海は日々うねりぶつかり合い、潮の流れを作る。日本近海の大動脈ともいえる黒潮が生み出す電力は約1,600万kw、鳴門海峡に流れこむ海流だけでも、原子力発電1基分に相当する100万kW以上の発電ポテンシャルが見込まれている。「鳴門海底発電所」を試験的に設置し、プロペラ式タービンが鳴門海峡に設置され潮の流れを電力に変換し、万博会場へと供給する。豪然たる潮のうねりは万博の動力の源となるのだ。

▶ EXPO DIY Hotel 52

無人受付 / 家具設計 / DIY

万博の24時間開催に当たり、遠方からの来場者に向けて次世代型快眠ホテルが提供される。その名も”EXPO DIY Hotel”。客室内の食器や家具は好みに合わせてオーダーメイド。快適な睡眠のために特に重要な枕やベッドは、体格や好みに合わせて全てその場で3Dプリントされる。設計図をダウンロードすれば、家でも3Dプリントによる入手が可能となる。“Design It Yourself”。来場者が宿泊そのものを自由に設計し、至高の快適を創り出す時代が到来する。

▶ Walk For Two 53

チャリティー / ウォーキング / 国際貢献

「歩く国際貢献」を実現する万博内チャリティープロジェクト“Walk For Two”。参加時に、万博内通貨「Expo」を使用し、歩数計付き靴をレンタル。万博内を歩くと、歩数に応じて万博内通貨「Expo」がキャッシュバックされる。たくさん歩くことで最初に払った額以上の「Expo」を稼ぐことも可能で、稼ぎながら、運動ができる企画となっている。レンタル時に支払った「Expo」は、世界中の恵まれない地域の子供たちが靴を買うための資金となり、靴が送られる。来場者は歩くことを通じて、世界の子供たちと歩く楽しみを分かち合うことができる。

▶ 調息の間 54

禅体験 / 呼吸法 / マインドフルネス

姿勢を正して呼吸を整える。たったこれだけのシンプルな行為で、私たちは驚くほど精神的な落ち着き、癒しを得ることができる。万博内に芝生広場をつくり、マインドフルネス体験をできるようにする。希望者にはインストラクターによる講習も受けられるようにし、万博で自分にあった「呼吸法」を身につけてもらう。私たちの生を支えている「呼吸」。都会の喧噪を離れ、呼吸を見直すことで、精神的な豊かさを得られるのではないだろうか。

▶ EXPO HealthCare Support 55

モバイルヘルス / ユニバーサルヘルスカバレッジ / 救急医療

3000万人の来場が予想されている大阪万博。多数の来場者が集まる会場内で体調を崩す人が出てくるのは必然である。2005年の愛知万博では、熱中症になった方が313人、心停止状態になった方が3人いた。大阪万博2025では来場者全員が、配布されたIoTデバイスを通してモニタリングされ、心停止などおこったときには、ただちに対応が施される。「万博フリークリニック」では、健康度チェックや、医師による診察が無料で受けられる。来場者全員が健康を達成し、健やかに万博を楽しむことが実現するのである。

▶ 万博最先端メディカルセンター 56

先端医療 / ヘルスケア特区 / 医療の国際展開

他で手の施しようがないと言われた患者さんが最後に集う場所へ。万博内最先端医療ケア施設「万博先端メディカルセンター」は、難病治療の臨床治験場、最先端医療の集積地となり、難治疾患に立ち向かう。世界から「最後はKANSAIにいくしかない」と言われるほどの医療の国際展開がなされ、医学、医療の限界に挑戦し続ける世界を牽引する医療特化型地域、関西の実現を目指す。

▶ Inconveniently Rich Separation 57

不利益デザイン / ゼロウェイスト / エコロジー

会場にずらりと並ぶ、ゴミ箱。よく見れば一つ一つ違う口の形をしている。万博内デザインの一つである“*Inconvenient Separation*”は環境保全と現代日本の大量消費に気がつくためにあえて、たくさんの分別を要求するゴミ箱デザインになっている。来場者は地球にやさしい行動の難しさと、大量生産、大量消費社会の現状に知らず知らず気が付いてゆく。

▶ EXPO SeamlessPass System 58

混雑解消 / レジ廃止 / 予約自動化

「人類の辛抱と長蛇」と揶揄された大阪万博'70。せっかく万博に来たのに大混雑で、パビリオンに入れないなんて、やってられない。パビリオン入場の予約はすべてオンラインで行われ、入場時間が近づくと、自動通知が来るので、行列に並ぶ必要はなくなる。レストラン、グッズショップにレジはなく、買い物かごに入れるだけで自動的に課金される。人と人が無秩序に折り重なる混雑から解放された生活は、私たちにかつてない心の豊かさを与えるだろう。

▶ Air Graffiti 59

グラフィティ / AR / 次世代スタイラス

覆面芸術家“Banksy”は落書き（グラフィ）こそ不特定多数に向けて表現できる唯一の手段であり、民主主義的であると唱える。万博内では、空中に落書きするための指装着型スタイラスを体験できる。落書きは空中にポストでき、来場者に配られた拡張現実（AR）ゴーグルによって自由に閲覧できる。無限のスペースに、自分の考えていることが自由に表現でき、他の人と見せあえる。そんな豊かさが万博の宙に浮かぶ。

▶ Shall We ZUKKOKE? 60

笑い / ノリ突っ込み / 大阪文化

誰かがボケたときに周りの人が倒れ込む、いわゆる「ZUKKOKE」文化は大阪に特有であり、関西定番のリアクションとして有名である。一時間毎に流れる関西人には耳馴染みの深い“Somebody Stole My Gal”に乗せ、会場内に特設されたステージ上に来場者に上がってもらい、ZUKKOKEを体験してもらう。皆が同じタイミングでZUKKOKEをすることで、国籍、人種、性別を超えて心のつながりが生まれる。笑い無くして豊かな人生？なんでやねん！



4

多 様 性 に 感 動 す る 万 博

自 分 以 外 の 人 の 痛 み を 感 じ と る に は 、 想 像 力 が 必 要 な の で す 。
- 手 塚 治 虫 -

別れゆく水脈の多様性に、感動する。

会場まで元気に足を運べるのは、どうしても体力のある健康な人ばかり。病気で万博に足を運べないおじいちゃんや日本にまで来れない世界の子供たちも参加できる万博であってほしい。そして、地域、人種、立場を超えて、一つの万博を見ることで、他者理解を深める。個人が自分らしく輝く Well-being な社会の実現には、他者理解が不可欠だから。

▶ Transvision 61

HMD

遠隔参加

病院



全ての人が会場まで足を運べるわけではない。障害を抱えている人、寝たきりの人、人混みが怖くて近づけない人。その様な人たちには、ヘッドマウントディスプレイを被っている万博会場内の人の視点に JACK-IN し、家や病院にいながらも、来場者の視点からみた万博の風景を楽しんでもらう。病気や障害に合わせた新しい参加の方法を創り出していく。多様な人が参加してこそ、万博は盛り上がる。

62 What's gender got to do with marriage. ◀

LGBT

結婚

特区

結婚するのに、性別なんて関係ない。愛しているから結婚するんだ。大阪に「LGBT 結婚特区」を設定し、LGBT の人々の結婚を認め、応援していく。万博会場内にも結婚式場を作って、LGBT の人々が挙式できるようにし、万博開催後も LGBT 結婚を応援する結婚式場として残しておく。差別や偏見のない大阪を目指して、制度面での革新を。



▶ 夜空の下に広がる難民キャンプ 63

難民支援

プラネタリウム

毛布寄贈



世界には、今この瞬間も危険と隣り合わせで暮らしている人がある。パピリオン内に難民キャンプから見える星空を映し出すプラネタリウムを作り、その中にテントを張って一晩を過ごす。星空の下、難民キャンプで暮らしている人々に思いを馳せる。来場者には、宿泊時に自分が使う毛布や布団を買ってもらい、使用した毛布・布団は、万博終了後難民キャンプへ寄贈される。

64 Female Voices ◀

男女格差

国際博覧会検討会

女性検討委員増加

万博の構想を話し合っゆく上で、女性からの視点がなくては、万人の感動を生めるはずもない。しかし、2025年国際博覧会検討会を見てみると、検討委員29名中、女性はたった2名。日本の男女格差ランキングは世界144か国中111位。日本が世界に遅れをとる分野は、“女性の社会進出”ではないだろうか。国際博覧会検討会の女性検討委員を半数までに増やす。それを皮切りに、女性がもっと社会に進出し、輝いていけるように。



多 様 性 に 感 動 す る 万 博

▶ 給食・博 65

給食 / 食文化 / 健康意識

給食。各国の食文化、健康意識、経済状況など、食に関わる様々な要素が詰まっているのが給食ではないだろうか。彩り豊かなフランス、ボリューム満点の南米、お粥だけのスーダン…。会場内で「給食・博」を開き、各国の給食を屋台で売り出す。また、「未来の給食」として、サプリメント給食や昆虫食も販売！？一つとして同じ給食がないことに気がつき、驚くこと間違いなし。

▶ World Dance Fusions 66

舞踊 / 文化融合 / 総合芸術

チャイコフスキー三大バレエの一つ「くるみ割り人形」の第2幕では、バレエ以外の各国土着の民族舞踊「キャラクターダンス」が舞台のスパイスとして取り入れられている。舞台“World Dance Fusions”では世界各国の民族舞踊を2種類ずつ掛け合わせ新たな舞踊の可能性に挑戦する。「マオリ族ハカ × 徳島阿波踊り」「Ballet × サンバ」「エイサー × タップダンス」…ダンサーたちはダンス留学に行き、真の舞踊文化の融合のため一年間互いの文化を学びあう。フィナーレでは、ダンサー全員が圧巻の群舞により人々を感動の渦に巻き込んでゆく。

▶ EXPO Collection 「スポコレ」 67

民族衣装 / ファッションショー / 即時購入

世界には数え切れないほどの民族衣装がある。万博で各国の民族衣装を中心としたファッションショー「スポコレ」を開催する。次々と披露される民族衣装をみながら、観客はお気に入りの民族衣装をその場で注文することができる。メキシコのハットとベトナムのアオザイを買って組み合わせるなど、観客の力でコーディネートは民族を超え、無限に広がっていく。

▶ Be A Woman! 68

ジェンダー / 女性体験 / 疑似体験

女性にしか分からない生理痛の辛さ、陣痛の痛み、出産の大変さ。生理中の気だるさを体感する「生理体験シート」、電極を流して陣痛の痛みを再現する「陣痛シミュレーター」や、重さ約15kgのおもりをお腹や胸につける「妊娠体験スーツ」を万博内に用意。女性にしか分からない生理、陣痛や出産の大変さを男性にも体験してもらおう。男女の壁が少しでも取り払われることを願って。

▶ かも・かわる きもち・つながる 69

人種 / モーション技術 / 表情

悲しい顔の人を見ると、なんだか悲しくなる。笑っている人を見ると、なんだか私も嬉しくなる。人は“顔”を通して、相手の気持ちを理解する。モーションスキルを使って、自分の顔と人種が違う人の顔を合成し、あたかも自分が他人種になったような体験をする。例えば、もしも自分がインド人だったら、こういう顔で、笑うとこんな表情になるんだ。他人種の人の気持ち、ちょっと分かった気がする。

▶ ALL FLAT 70

バリアフリー / 建築デザイン / ユニバーサルデザイン

たった5cmの段差。車椅子に乗っている人は、その段差を通過するためにどれだけ苦労しているのだろう。30段の階段。杖をついた方がこの階段を昇るのに、どれほどしんどい思いをしているのだろう。会場内から階段を一切無くし、全てスロープなどのフラット構造にする。そうすることで、車椅子の人や足腰の弱い人の負担を大幅に減らす。

多 様 性 に 感 動 す る 万 博

▶ バイリングラス 71

メガネ型ウェアラブル端末 / 同時通訳アプリ / 言語の壁

人と人とのコミュニケーションに不可欠となる言語。伝えたいこと、話したいことはあるのに、言語が異なるためにうまくコミュニケーションをとれない、というのは珍しいことではない。万博会場では、出会った異なる言語を話す2人が、メガネ型ウェアラブル端末「バイリングラス」を装着するだけで簡単に会話を楽しめる。「バイリングラス」には話者の言語に対応した同時通訳アプリが搭載されており、2つの言語を瞬時に翻訳される。

▶ Borderless Sports 72

障害者スポーツ / 身体差 / スポーツ施設

障害者も健常者も身体差は関係なく楽しめるスポーツ施設を会場内に作る。会場内で楽しめる種目は、車椅子テニスやブラインドサッカーなど、障害がある人にもハンデがないようなものに限り、障害者だけでなく、健常者からも施設を利用できる。身体をフルに使う、スポーツを通してこそ、「人と人との身体差」があることを認め、互いを理解することができる。

▶ 私にしか、できないこと。 73

自閉症 / 芸術活動 / サヴァン症候群

人は皆、それぞれの世界観を持っている。同じものを見て、聞き、触れていても、その感じ方は人によって様々で、またその表現の仕方も異なる。自閉症スペクトラムを持つ人の中には、サヴァン症候群と呼ばれる症状を呈する人がいる。その中には、優れた芸術感覚を持ち、自分が感じた世界を音楽や絵画を通して巧みに表現する人もいる。万博内で、彼らの芸術作品を展示し、自閉症の人々がもつ世界観を体感する。彼らにしか表現できない世界の新たな姿は、来場者から形容する言葉を奪うだろう。

▶ Let's Hug Together! 74

フリーハグ / 国際交流 / 他者理解

情報化社会、国際問題、引きこもり、家庭崩壊…。こんなにたくさんの方がいるのに、どうしても繋がれない。そんな今だから、万博ではこう言おう。“Let's Hug Together!”。「フリーハグズ・アンバサダー」は合言葉と共にハグの輪を広げてゆく。資格取得は簡単。笑顔で目を見ること、怖がらずに合言葉が言えること、そして、ハグのありがとうが伝えられること。

▶ Techditional 75

伝統芸能 / 最先端アート / コラボレーション

伝統芸能なんてもう古いという若者。テクノポップなんて音楽じゃないというお年寄り。古い芸術、新しい芸術、という二極的な枠組みはもう捨てて、これからは伝統芸能と最先端の技術を組み合わせた、融合的な芸術が発展していく。例えば、アフリカの伝統芸能にテクノポップが組み合わさったら？茶道具が3Dプリンターとレーザーカッターを組み合わせで作られたら？万博会場では、最新アートと伝統芸能のコラボレーション展示会が行われ、新たな歴史が生まれる。

▶ やおよろず☆ぽーと 76

神道 / 宗教 / 空路インフラ整備

自然万物に神様が宿ると考え、あらゆる物や現象に敬意を払い八百万の神を見いだす神道。神も人と同じように生活し、互いに寛容、受容し合う文化が古の日本に培われてきた。その中でも総氏神として君臨する天照大神が祀られている伊勢神宮は、「お伊勢さん」として人々から今も愛されている。万博内に設置されたヘリポート「やおよろず☆ぽーと」は、関西のヘリ空路インフラの中心地であり、伊勢を始め、関西辺縁にヘリで飛来することができる。多様性を保ち、互いを認め合う社会を成り立たせる。その答えはお伊勢さんにあるかもしれない。

多 様 性 に 感 動 す る 万 博

▶ 郷愁の香り

77

五感 / 異国 / ビニールハウス

見知らぬ土地に行った時、私たちは視覚のほかに聴覚、嗅覚、触覚もフルに活用して、その土地の雰囲気を感じ取る。ノスタルジア体感パビリオン「郷愁の香り」では、世界各国の風景をそのまま再現したビニールハウスが立ち並び、現地の人を実際に招いて交流することができる。映像や音楽といった視覚・聴覚情報だけでなく、湿度・匂いといった情報も忠実に再現される。その土地の匂いや空気まで伝わってくる、そんな空間を目指して。

▶ 絶景 SoundScape

78

ビジュアルマイク技術 / 仮想現実 / 絶景鑑賞

想像して欲しい。一切の激みのない湖面の静けさを。マグマ吹き出す火山の咆哮を。熱帯原生林の生命のコーラスを。拡張現実体験アトラクション「絶景 SoundScape」では、日本だけでなく地球全体の絶景に置かれた高性能ビジュアルマイクによって、高解像度の絶景と生の音がそのまま再現される。地球の多様で荒削りな芸術を感じる旅行に、さあ、出発だ！

▶ Zoom to zoo

79

バイオリギング / 360° VR 動画 / 生物多様性

空を飛ぶ鷲、南極の海中でハンティングするペンギン。人間とは違う視線、スピード感を持つ動物たちの背中にカメラを搭載し、彼らのリアルな世界を映像におさめ、360° の VR 映像を作成する。来場者はその映像をみることで、動物たちの視線にダイブする。多種多様な生物が、毎日見ている世界。私たちの見ている世界と全然違う。地球上の生物多様性を体感して、感動しないわけがない。

▶ Biomimetics Aquarium

80

バイオミメティクス / 生物多様性 / 水族館

水族館に入り、目の前に広がるのは、多種多様な魚や植物たち。その水族館の設計のいたるところにバイオミメティクスの技術が取り入れられている。例えば水族館の電気は、ザトウクジラのヒレからヒントを得た発電機によって生み出され、壁にはハスの葉の撥水効果からヒントを得た防水加工がなされている。生物が長年培ってきた生きる知恵の美しさと力強さに改めて感動する。



5

世代を超えて共創する万博

志を立てるのに、老いも若きもない。そして志あるところ、老いも若きも道は必ず開けるのである。

松下幸之助

手を取り合って、共に万博を創り上げる。

健康長寿の未来を、世代を超えて共創する。超高齢社会の今、お年寄りに持つ「老い」のイメージを変化させ、若者にお年寄りとの共創の文化を根付かせることが重要ではないだろうか。

知恵と経験を持つお年寄りと、活力と創造性を持つ若者が協同することで、お年寄りが安心して暮らせ、若者が将来に希望がもてる、そんな未来を創っていく。

▶ 若者万博検討会議「WAKAZO（若造）」 81

提言書

若者会議

市民参加

WAKAZO

大阪万博のテーマ、「人類の健康・長寿への挑戦」は若い人はワクワクしづらいかもしれない。しかしこのようなテーマだからこそ若者が積極的に発案していかなければならない。若者検討会議「WAKAZO」は万博開催時期に25歳以上40歳未満、つまり2016年現在17歳～31歳の若者が対象。「WAKAZO」内で採用された案を既存の有識者による検討会へ提言書として提出する。このシステムによって若者が発案し、ベテランが決議を担当する共創が実現できる。

82 年の功 vs 若気の至り ◀

ダンスバトル

パワードスーツ

世代間競争

高齢者の口からは「最近の若者は」、また若者からは「これだから老人の古い考え方は」。今日こそ、その議論に決着をつけよう！…ダンスで。一高齢者TEAMはパワードスーツに身を包み、若者TEAMは若き肉体そのまま、ヒップホップやブレイクダンスといったダンスに挑戦し、どちらが優れているかの真剣勝負を行う。若者は「若気の至り」から粗削りで力強く、高齢者は「年の功」を生かしたユーモア溢れる演技を行う。コンテストを通じ、目標に一心不乱に努力する両世代を見て、万博はさらに全世代を元気づけてゆく。

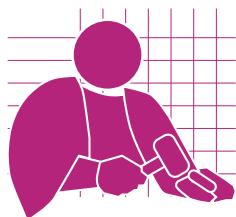


▶ The Meisters' Soul 83

職人

熟練技術

技術継承



日本の小さな町工場が、今日まで絶やすことなく伝承し続けてきた日本の宝ともいえる技術がある。熟練工の有する、「職人技」である。「The Meisters' Soul」では、日本刀研磨などといった、我が国が誇る熟練工の技術をパフォーマンス披露し、世界中からの来場者に対してアピールする。同時に、披露された後世に残すべき熟練工のノウハウをIT技術を駆使してデジタル化することによって、業務プロセスやシステムに展開し、非構造化データのIT継承へと繋げる。

84 万博を、ふるさとに。◀

ふるさと納税

万博チケット

ファンドレイズ

大阪府にふるさと納税することで、お礼品として万博の入場チケットが送られてくる。

ほんの小さなあなたの気持ちが、万博という大きな大きな形となってあらわれます。より充実した万博を開催するためにも、また万博後も大阪が「人類の健康・長寿」というテーマのもとで発展していくためにも、ただ万博に来るだけでなく、大阪をちょこっと応援しませんか。



世代を超えて共創する万博

▶ ベンチャー企業シニアインターン制度「長老」 85

シニアインターン制度 / ベンチャー / マッチング

我が国の人口減少、及び高齢化による労働関連リソースの問題は深刻になりつつある。こうした社会背景を踏まえ、大阪府の支援によってベンチャー企業へのシニアインターン制度「長老」を実施することで、100歳まで働ける社会を目指す。「長老」はシニアに対して労働機会を提供するのみならず、人生の先輩としての役割を最大限に果たし顧問として活躍することのできるような、シニアのプロフィールに適したベンチャー企業をマッチングする。世代を超えた協力が、新産業創出の原動力となる。

▶ 共育遠足「万博へGo！」 86

幼老複合施設 / 保育 / 遠足

万博は日本全土にドキドキとワクワクを与える。共育遠足企画「万博へGo！」では、世代を超えて心躍る万博へお年寄りと児童が共同で行くことにより、若い子供たちとお年寄りの交流が図られる。児童たちは幼稚園、小学校などの単位で地域の養護老人ホームに赴き、遠足にむけてお年寄りたちと交流会を行う。遠足当日は、子供たちがお年寄りに寄り添って万博内を案内する。かつては当たり前であった「子どもとお年寄りのふれあい」。共創は、まずふれあうことから始まる。

▶ 「万博ファンド」の設立 87

ファンド / 公益資本主義 / シニア資産家

資本主義は本来、「皆が豊かで幸せになれる社会を創るためには」という点に端を発する。しかし、現代社会では株主の短期的利益のみを追求した投資が目立つ。そこで我々は「万博ファンド」を設立し、人類の長期的利益、公の利益を第一に考える基礎研究、NPO活動、企業活動に積極的に投資する。ファンド資金は、50年後、100年後の人類の発展に投資する気概のあるシニア資産家から主に拠出される。

▶ 大阪万博公式クラウドファンディング「万博登竜門」 88

クラウドファンディング / 寄付文化 / 産業創出

何かを成し遂げなければ、ネットで大衆から資金調達をするのがあたりまえの時代。万博に向けて、起業家精神あふれる若者の背中を押すために、大阪万博公式クラウドファンディングサイト「万博登竜門」を開設する。2025年をマイルストーンとし、若者の実践力をさらにブラッシュアップしていく。万博を通じて、新たなヘルスケア産業の創出を目指す。同時に、万博のもつ発信力を利用し、寄付への関心が低い層にまでリーチしていくことで日本の寄付文化促進へと繋げる。

▶ 140字アイデアホームページ「WAKAZO online」 89

アイデアタンク / ソーシャルメディア / 若者議論

インターネットの世界。そこは、時間や場所の制約がなく、規模を問わず効果的な議論ができる世界。インターネットで「書くディベート」を促すアイデアホームページ「WAKAZO online」では、市民、万博運営サイドの両者が、万博から派生する様々なトピックについて「提案」や「アイデア募集」を行うことができる。質問がしやすいように匿名での投稿を可能にするなど、双方向に多様な議論を促すインターフェースを意識する。世代を超え、あらゆる人が「書く」ことで、万博が創られてゆく。

▶ Buddy 2030 Project 90

未来創造 / ブロック / プロトタイピング

子どもたちの想像力は、時として大人のそれを凌駕する。大人たちの力は夢を現実にする。世代間共創プロジェクト“Buddy 2030 Project”では、中学生以下の子供達と、建築分野のプロフェッショナルとがコラボレーションすることで、設計段階から2030年の未来の街を共に描き、ブロックを使ってプロトタイピングする。大人たちは子供たちから突飛な意見や自由なインスピレーションを引き出し、完成品は万博跡地の活用案として取り入れられ、子供たちの未来へと反映されてゆく。

世代を超えて共創する万博

▶ るんるん！ルーデンス

91

街づくり / 憩いの場 / 遊び

「るんるん！ルーデンス」は来場者にとっての、憩いの場だ。大人から子どもまで幅広い世代が、遊び、くつろげる緑地スポットであり、懐かしのおもちゃ、昔から遊ばれてきた盤ゲーム、そして集まった不特定多数の人で「ゆるスポーツ」が行われる。また、ベンチに座ってゆっくりと会話したり、芝生の上でお昼寝するなど、時間を気にせずくつろぐことまでできる。人が体を使って「遊び」に熱中できることで世代を超えたつながりが生まれる。

▶ シニア世代の皆さん、力を貸してください！

92

シニアボランティア / 再雇用 / 健康長寿

定年退職した後もまだまだ元気なシニア世代の皆さん、ぜひ力を貸してください！シニア世代の先輩たちに、万博のシニアボランティアとして活躍してもらおう。1970年の大阪万博の熱狂を知っているシニア世代も多いはず。そんなシニア世代のエネルギーを取り込み、万博を盛り上げていこう。

▶ コネクテッドハウス「MIRAIE（未来家）」

93

IoT / 高齢者向け住居 / スマートハウス

IoTやセンシング技術の進歩により、家とその住人が丸ごとインターネットでつながる時代は目前に迫っている。会場に展示されたモデルハウス「MIRAIE」は、一人暮らしの高齢者向けに作られたつなぎ変え自由の家。「外出時鍵を閉めると、火元の確認を自動でしてくれる。」「朝目覚ましを止めると、食卓でドリップコーヒーが入る。」年をとれば、できないこと、面倒くさいことが増えてくるのはあたりまえ。それに合わせて、若者がICTの力で柔軟にサポートする。そんな共創ありじゃない？

▶ EXPO Colorful Road

94

多年齢層参加 / ウェアラブルデバイス / クロミック分子

万博会場の道路には、歩行者のウェアラブルデバイスと連携して光るフィルムコーティングが施されている。年齢層に応じて異なる色を発するようになっており、例えば子どもが通ったら赤色、高齢者が通ったら青色に路上が光る。幅広い年齢層の人が万博に来場することで、会場はよりColorfulになっていく。それぞれの世代が自由に彩る万博会場は世代を超えて作られる社会の理想形を示している。

▶ 万博 EXTRA-Resort

95

IR / 介護施設 / カジノ

高齢者が安心して、思いっきり楽しみながら暮らせるようにする。「万博 EXTRA-Resort」は、介護施設、病院、リゾート、カジノを併設した万博内の複合型健康施設。介護保険が適用される介護保険施設と、自費で施設外の人と、カジノを楽しめる施設を。料金・サービス体系は柔軟にし、施設に入る人も、施設で働く人も、幸せな気分になれる介護を作り出していく。

▶ L-YAP “Local Young Action Project”

96

地方創生 / 教育 / 課題解決型学習

都会に住む、中学生、高校生は地域の大人達に助けられた経験が少ないように思われる。それが地域への愛着を持ってないことにつながり、地域から離れていくことにつながっている。“L-YAP”では中学、高校のカリキュラムに、地域の大人に助けられながら課題解決を行っていくプログラムを導入。子供達は社会の仕組みや責任感ある行動を身を以て学ぶとともに、地域のかっこいい大人にあこがれる。彼らの心に確かに刻み込まれた原体験は、世代を超えた共創精神の萌芽となるだろう。

世代を超えて共創する万博

▶ Stand By Me 97

自助 / 共助 / BLS

人は一人では生きてはいけない。社会で生きていく私たちは相互扶助の精神を持ち、公的サービスに依存するのではなく、自分たちの健康は自分自身で、またはお互いで、守っていかなくてはならない。共助拡大プラン“Stand By Me”では会場スタッフは全員、BLS講習、防災訓練を受け、人が倒れた時や災害時に、的確な判断と行動で人命を救助できるようにする取り組みである。お互いがお互いを支え合う、そんな世界を、共につくろう。

▶ EXPO-Exchange 98

シェアリングエコノミー / 少子高齢化 / 介護

例えば会場内で歩き疲れて手助けを必要としているお年寄りと、ごはんを食べたいがあまりお金を持っていない学生。そんな両者の思いを叶えるためのシェアリングエコノミーシステム“EXPO-Exchange”を会場内に導入する。来場者が共通のアプリをダウンロードし、手助けを必要とするお年寄りはアプリでヘルプを求める。それを見た若者は手助けに行く代わりに、お礼に食事券をゲットする。他者を助け、自分も助けられる。必要な時に必要な量だけ。これからの社会に必要な不可欠だろう。

▶ Senior × Youth Campus (SYC) 99

生涯学習 / 健康長寿 / 世代格差是正

「学びたい。子どもの時、これを習いたかった。」。高齢者の中には、そんな思いを強く持っている人も多いのではないかと。ただ、年齢・体力的に中々手を出せないこともあるはず。そこで、仮想の世界の中で新しいことにチャレンジしてもらおう。例えば、360° ハワイの海が映し出された部屋の中。周りの風景が動くことでサーフボードの上に乗っているだけでサーフィンが出来るかのような気分を味わえる。若者が開発したテクノロジーで、高齢者が新たな楽しみ・学びを広げていく。

▶ 孫割 100

割引制度 / 全世代参加 / 家族の会話

「おじいちゃん、おばあちゃん、一緒に万博いこう！」孫からこのような声が掛かる。「よしよし、どれ、行くしかないのう。」大阪万博では、祖父母と孫が同時に入場すると孫の入場料が割引される「孫割」が実施されている。祖父母は、1970年の大阪万博の大阪万博を思い出して当時の思い出を孫に語り、孫は万博が描き出す未来の街に目を輝かせ、将来の夢を祖父母に語る。普段は中々話せないような思い出や夢なども、万博をきっかけにして語り合えるようにしたい。

編集後記

2025 大阪万博誘致 若者 100 の提言書

編集委員長

寺本 将行（大阪大学医学部医学科 5 年 /inochi 学生プロジェクト代表）

副編集委員長

清元佑紀（大阪大学医学部医学科 4 年）

デザイン・編集

田縁正明（大阪大学経済学部経済経営学科 4 年）

編集委員

梶谷隼世（京都大学大学院医学研究科 1 年）

川竹絢子（京都大学医学部医学科 3 年）

山田達也（大阪大学医学部医学科 3 年）

薬王俊成（大阪大学医学部医学科 3 年）

嶋田里香（四天王寺高等学校 2 年）

加輪上創介（甲陽学院高等学校 2 年）

堀江風花（私立智辯学園和歌山高校 2 年）

世耕弘一郎（奈良学園登美ヶ丘中学校 3 年）